

百合殴り書きSS

Hiromi

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

講義中に殴り書いた百合SS

目次

百合殴り書きSS

1

姉妹百合

11

百合殴り書きSS

うい「これうつまい！」

ゆり「ありがと。今日は遅かったから、手込んでなくてごめんね」

うい「え、これで？スープほんとにうまい！」

ゆり「それはよかった」

うい「むしやむしやがつがつごきゅごきゅ——」

ゆり「もうっ、こぼしすぎ。ん——これで綺麗」

うい「えへへ。ありがと、ゆりも綺麗だよ」

ゆり「はいはい」

うい「おかわり！」

ゆり「ゆつくり食べなさい」

うい「う…わかりました」

ゆり「——はい、どうぞ」

うい「むしやむしやがつがつごきゅごきゅ——」

ゆり「聞く気ゼロね…」

うい 「あしたはういが作るから、任せといて！」

ゆり 「どうして？私を作るけど——」

うい 「いい！私を作る！」

ゆり 「そう…じゃあ楽しみにさせてもらおうかな」

うい 「うん！」

ゆり 「食べたらお風呂入ろうか」

うい 「…一緒に？」

ゆり 「勿論」

うい 「わ、わかった」

ゆり 「もう…いい加減慣れない？」

うい 「だ、だって恥ずかしい…」

ゆり 「クスッ」

うい 「もう、笑わないで…？」

ゆり 「先入ってるね」

うい 「ん…わかった」

うい 「今日も雨だ〜」

ゆり 「洗濯物、たまつてきちやつたな」

うい 「ランドリーいく？」

ゆり 「んー、でも雨だしね」

うい 「出たくないのよね」

ゆり 「明日でいつか」

うい 「じゃあ今日は出かけないの？」

ゆり 「そうだね」

うい 「なら、えへへ」ぎゅっ

ゆり 「ん、どうしたの」

うい 「独り占め」ニコニコ

ゆり 「いつもしてるでしょ？」

うい 「そうかも」

ゆり 「起きて、うい」

うい 「ん〜……………」

ゆり 「ねえ、起きてよ」

うい 「んう？んっ……………」

ゆり「——起きないとキスする」

うい「……どぞ」

ゆり「してほしいの？」

うい「っ…うん、してほしい」

ゆり「キスで終わらないかも」

うい「ん、別に…いいから」

ゆり「じゃあ、ん——」

うい「——っ…ツツ!？」

ゆり「っふう…どう？」

うい「くくくツ!!」

ゆり「つく、あはは、あっはっはっはっはっはっは!!なにその顔!」

うい「くくくく!すつつつつつぱ!!!」

ゆり「あは!おいしい…っ？」

うい「つもくくくくく!あり得ない!!」

ゆり「可愛いんだから、もく…」

うい「ぜったい許さない!」

ゆり「うーい？」

うい 「なに？」

ゆり 「おはよう」

うい 「むくく」

ゆり 「おはようは？」

うい 「……」

ゆり 「…おはようは？」

うい 「——おはよう」ボソツ

ゆり 「はい、おはよう」クスツ

ゆり 「その T シャツ、いつも着てない？」

うい 「これ？高校からずっと部屋着だもん」

ゆり 「可愛いね」

うい 「え、やっぱり!?!これ凄い可愛いよね!この謎の動物みたいなやつが——」

ゆり 「ダサすぎて、可愛い」

うい 「…」

ゆり 「まあういが可愛いから、可愛く見えるんだけど」

うい 「…この T シャツは？」

ゆり 「ダサイ」

うい 「…」

うい 「今日凄く気合入ってるね」

ゆり 「わかる？」

うい 「…誰かと会うの？」

ゆり 「うん、バイト先の先輩」

うい 「…そうなんだ」

ゆり 「女の人だよ」

うい 「…わかってるくせに」

ゆり 「すぐ帰ってくるから」

うい 「約束ね」

ゆり 「はいはい」

ゆり 「ただいまあ」

うい 「ゆり、酒臭い」

ゆり 「んん…ごめん」

うい「——飲んできたんだ」

ゆり「まあね」

うい「………」

ゆり「うい〜？」

うい「お風呂、沸かしといたから」

ゆり「ん、ありがとうとお…でも、その前にい。ん〜…」

うい「…酒臭いから、や」

ゆり「ええ…じゃあ、お風呂入ったら、いい？」

うい「早く入ってきて」

ゆり「はーい」

ゆり「(けなげに待ってたんだ、も……かわいいな〜)」

ゆり「(ちよつと飲みすぎたかも。潰れないように気を付けてるんだけど)」チャップ

ンツ

ゆり「?!?!?!?」ザバア

ゆり「欸え、あう?!?!?!?」(冷た!!)」

ゆり「………はあ?!?!?!?さめちやった」

ゆり「もう、お風呂沸かしてくれたたんじゃなかったの？」

うい「…」ツンツ

ゆり「——わかったわかった」

うい「…」ツンツ

ゆり「ごめんなさい」

うい「…知らないもん」

ゆり「私だって断りたかったけど…」

うい「…」ツンツ

ゆり「…はあ、ごめんなさい」

うい「——今日」

ゆり「ん？」

うい「一緒に、寝る」

ゆり「うん、いいよ」

うい「明日は遊園地デート」

ゆり「凄く楽しみ」

うい「明後日は一緒に飲む」

ゆり 「吞めるの？」

うい 「飲むの！」

ゆり 「もう、わかったってば」

うい 「明々後日は——」

ゆり 「いや仕事だから」

うい 「・・・毎日一緒に寝る」

ゆり 「はいはい」クスッ

うい 「観覧車乗りたい!!!」

ゆり 「いいよ」

うい 「あの位置、絶対家見えるね！」

ゆり 「じゃあ下で待つてるから」

うい 「え、なんで・・・？」

ゆり 「高所恐怖症なのよね」

うい 「・・・じゃあいい」

ゆり 「遠慮しないで？」

うい 「行ってくるから下で見ててね！」

ゆり「あ、うん。いってらっしゃーい……」

うい「ジェットコースター乗る！」

ゆり「乗れないんじゃない？」

うい「…乗れるもん」

ゆり「あ、2種類ある」

うい「！こつちあんまり怖くないやつだ！」

ゆり「でも高いから無理」

うい「…あつちの高いの乗ってくる」

ゆり「いってらっしゃーい」

姉妹百合

妹「お姉ちゃん」

姉「はいはい」

妹「買い物行こ」

姉「やだ」

妹「いいけ、行こ」

姉「無理」

妹「動かなすぎ」

姉「暑いもん」

妹「体重増えたの知つとるけ」

姉「……………えっ」

妹「ニコニコッ」

姉「…着替える」

妹「ん、待つとく」

くくく ショッピングモールくくく

姉 「外暑かった」

妹 「アイス食べたい」

姉 「そうだね」

妹 「食べたい」

姉 「いちご？」

妹 「ありがとう」

姉 「はい」

妹 「ありがとう」

姉 「あーん」

妹 「先に自分の食べるから」

姉 「ごめん」

妹 「あむっ」

姉 「可愛い」

妹 「抹茶も食べたい」

姉 「知つとる」

妹 「ありがとう」

姉 「あーん」

妹 「んーあむっ」

妹 「お腹すいた」

姉 「昨日寝る前のが残つとる」

妹 「だけ太るんよ」

姉 「∴」

妹 「今日一緒に寝ていい？」

姉 「∴」

妹 「∴ だめなん？」

姉 「だめ」

妹 「えっ」

姉 「意地悪言う罰」

妹 「ごめん」

姉 「許さん」

妹 「お姉ちゃん好きだよ」

姉「媚びんで」

妹「柔らかくて好き」

姉「嬉しい」

妹「最近ちよーやわらかい」

姉「絶対許さない」

姉「もう無理帰ろ」

妹「引きこもり野郎」

姉「急にどうした」

妹「何食べたい？」

姉「何でも」

妹「困る」

姉「知ってる」

妹「ぶたにくを買う」

姉「キムチ」

妹「辛いのだ」

姉「砂糖いれれば」

妹「料理出来んお姉ちゃんは黙って」

くくく自宅くくく

妹「適当にトンテキ」

姉「いやおもんな」

妹「お姉ちゃんのご飯ツナ缶ね」

姉「ごめんで許してちょんまげ」

妹「マジでおもんない」

姉「ユーモアのセンス一緒ね」

妹「一緒にすんな」

姉「美味しそう」

妹「美味しいよ」

姉「知つとるが」

妹「塩と胡椒オンリー」

姉「私でも出来そう」

妹「無理だから」

姉「酷い」

妹「お姉ちゃんの料理の腕は信用できない」

姉「たしかに」

妹「食べるけどね」

姉「嬉しい」

妹「ゲロでも頑張つて食べるよ」

姉「失礼すぎ」

妹「風呂入るよ」

姉「どうぞ」

妹「一緒入ろ」

姉「別に良いけど」

妹「いいんだ」

姉「背中流して」

妹「前もしてあげる」

姉「なら私もするね」

妹「背中流すね」

姉「ん」

姉「きもちー」

妹「狭い」

姉「足を伸ばすな」

妹「はー楽」

姉「おい、足下ろせ」

妹「これで広い？」

姉「下ろせと言ったんだ上げるな」

妹「臭い？」

姉「顔の前は気持ち的にやだ」

妹「臭い？」

姉「臭くないよ」

妹「よかった」

姉「おいしい」ペロツ

妹「先あがるね」

姉「いやごめん」

妹「…」

姉「ごめんって」

妹「お姉ちゃんは」

姉「うん？」

妹「私のどこが好き？」

姉「うーん」

妹「ないんだ」

姉「そうじゃなくて」

妹「すぐ出ないんだ」

姉「強いて言うなら」

妹「うん」

姉「妹なところ」

妹「血か」

姉「語弊があるね」

妹「血の繋がりあるかな」

姉「えっ」

妹「血の繋がり感じられない」

姉「なんで？」

妹「私は変態じゃない」

姉「なるほど」

妹「ウザくもないし」

姉「なるほど」

妹「あと家事できるし」

姉「私もできる」

妹「洗濯と洗い物だけね」

姉「多分妹の掃除もできる」

妹「ほんとキモい」

姉「電気消すね」

妹「おやすみ」

姉「おやすみ」

姉「走るの遅すぎ」

妹「ちよっと待って」

姉「でも早く行かないと売り切れる」

妹「私は別にいらない」

姉「私は欲しい」

妹「嘘つき」

姉「嘘じゃない」

妹「アレルギー持ちあるでしょ」

姉「妹が喜ぶから買う」

妹「…」

姉「手に入れた…」

妹「おめでとう」

姉「嬉しい？」

妹「ちよつとだけ」

姉「一緒に食べよう」

妹「ダメだから」

姉「でも」

妹「お姉ちゃんはこれ」

姉 「∴ 手作り？」

妹 「当たり前」

姉 「ありがとう」

妹 「洗濯物、そろそろ取り込もう」

姉 「手伝うよ」

妹 「私の洗濯物だけ取るのやめて」

姉 「いい匂い」クンクン

妹 「やめろ」

姉 「この匂い嗅ぎながら寝たい」

妹 「私じゃダメなの？」

姉 「いつだってウエルカム」

妹 「∴ 一緒寝て」

姉 「いいよ」

姉 「今日のご飯は？」

妹 「鮭」

姉「塩焼良いよね。いただきます」

妹「いただきます」

姉「・・・？これ味付けなに？」

妹「愛」

姉「塩頂戴」

妹「味付け忘れてた」

姉「ドジっ娘め」

妹「可愛い？」

姉「凄く」

妹「よかった」

妹「お姉ちゃん」

姉「はい」

妹「私のどこが好き？」

姉「うーん」

妹「ないんだ」

姉「そうじゃなくて」

妹「すぐ出ないんだ」

姉「んー」

妹「・・・お姉ちゃん？」

姉「好きだよ」

妹「どこがって聞いているの」

姉「妹が好き」

妹「もういい」

姉「おやすみ」

姉「プールに行こう」

妹「水着ない」

姉「スクール水着でいい」

妹「それはちよつと恥ずかしい」

姉「お姉ちゃんもだから」

妹「成長してないの？」

姉「いやしてるけど」

妹「確かに。お腹は見てわかるね」

姉「は？」

妹「行こっか」

姉「やった」

くくプールくく

姉「人多いな」

妹「ウォータースライダー行こう」

姉「流れるプール行こう」

妹「じゃあ一人で行く」

姉「いつてらっしやい」

妹「∴ やっぱ流れるプール行く」

姉「後で一緒にスライダー行こう」

妹「うん」

妹「人多すぎてもう無理」

姉「確かに、まるで満員電車」

妹「：： お姉ちゃん、なんか冷たいね」

姉「実は冷え性だから」

妹「じゃああったためてあげる」

姉「：： 妹も冷たいな」

妹「私も冷え性」

姉「プールから出よう」

妹「賛成」

姉「高い」

妹「ウォータースライダーは高ければ高いほど良い」

姉「一理ない、怖い」

妹「高所恐怖症？」

姉「高いところ怖くないやつ、生き物としてどうなの？」

妹「一理」

姉「滑ってる途中で浮かび上がったりしない？」

妹「大丈夫だよ」

姉「コース外れて地面に叩きつけられたりしない？」

妹 「大丈夫だよ」

姉 「怖いから一緒に滑ろう」

妹 「いつてらっしやい」ポイツ

姉 「あ」

妹 「きゃー！」キヤツキヤツ ザブンツ

姉 「おかえり」

妹 「楽しい、もう一回やろう」

姉 「いや、私はもう死んだから気にせず」

妹 「だめなの？」

姉 「… だめ」

妹 「じゃあ今度は一緒に滑ろう」

姉 「… いいよ」

妹 「私が前ね」

姉 「わかった」

妹 「… お腹じゃなくて肩持ってよ」

姉「柔らかい：．あれ？」

妹「太ってないよ」

姉「いや完全に」

妹「太ってないもん」

姉「そっか」

スタッフ「すいません、二人で滑るのはちよつと」

妹「怒られた」

姉「言われてみれば危なすぎる」

妹「お家帰ろ」

姉「そうしよう」

妹「手繋いでいい？」

姉「冷たい手で良ければ」

妹「お互い様」

姉「今日はアイス買おう」

妹「冷え性がプール行つて帰りにアイスで」

姉「食べたいでしょ？」

妹 「食べたい」

姉 「似たもの同士だね」

妹 「いや、姉妹だし」